

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 信文



■ 年頭のあいさつ

新年、あけましておめでとうございます。今年も、どうぞよろしくお願いいたします。

昨今、世界の平和が大きく揺らいでいます。日本でも、国民総動員による活躍が求められる時代となりました。本市も成長戦略の策定に追われています。私も例年になく多忙で、市民に約束した基本姿勢を時々呪文のように唱えています。「公正公平な姿勢の堅持 市民が主権者であることを決して忘れないこと 財政規律のさらなる健全化 災害に強いまちづくり」。

今年もがんばります。

■ 山口東京理科大学の公立化

昨年暮れ、県知事から山口東京理科大学の公立化について平成 27 年 12 月 25 日をもって認可する旨の通知が届きました。この認可は「公立大学法人の設立の認可」で、法人設立の時期は平成 28 年 4 月 1 日予定。この法人が「山陽小野田市立山口東京理科大学」を設置します。

法人の体制は、理事長・学長分離型で、役員は理事長 1 人、副理事長(学長) 1 人、理事 3 人、監事 2 人です。山口東京理科大学の学長経験者、小野田・山陽両商工会議所会頭その他の方々にご協力をお願いしようと考えています。

法人の重要事項は、経営審議会と教育研究審議会(各 15 人以内)で決定されます。いずれ

も大学側のほか、市内企業や市民にも参加していただく予定です。

公立大学は、現在の山口東京理科大学同様、工学部のみでスタートしますが、2 年後には待望の薬学部を増設する予定です。増設には大小様々な課題がありますが、本市の飛躍につながる大切な事業と位置づけ、学校法人東京理科大学との連携・協力のもと、市役所では関係部署が一丸となり、市議会への報告を密にしながら、何とか全てのハードルを乗り越えることができると念じています。

市民のみなさんのご協力をお願いします。

■ 価値観の多様化

昨今、いろんな価値観が多様になってきました。人間として自由に生きるための束縛からの解放といえはそれまでですが、同性同士の婚姻届が受理できるかという類の問題となると、婚姻は人間社会が作った制度だけに、その制度の規制を受けるのは当然であると考えます。一方同棲は、制度に無関係な自由な行為であり、制度の規制を受けないと同時に、婚姻制度の恩恵や保護も受けることができず、制度の埒外^{うちがい}にあるとされてもやむを得ないのではないかと考えます。そのうち、本市も価値観の多様化に巻き込まれ、婚姻届の不受理が違法であるとの訴訟もあり得ると覚悟しています。